

移住者日記

No.2



株式会社ネクサスファームおおくま
生産部 栽培管理課長

宮澤 拓 様

大学卒業後、地元・新潟で個人経営の農家に3年ほど勤務しました。そこでは、米やナス、枝豆など、複数の作物を栽培しておりましたが、メインの品目は「越後姫」という新潟のオリジナル品種のいちごでした。その後、飲食業に転職しましたが、もう一度農業に携わりたいという気持ちもあったため、再び転職活動を開始しました。次に農業をする際は年間を通して同じ作物の栽培をしたいと考えていたことや、これまでの経験からいちご栽培への関心が高かったことから、ネクサスファームおおくまの求人募集を見つけた際、大変魅力を感じました。

2020年1月、ネクサスファームおおくまへの就職をきっかけに大熊町に移住しました。当初は、町内に買い物ができる施設がないことに加えて、大熊町への配達も制限されており、日用品等が必要になる度に富岡町まで足を運んでいました。現在では、大熊町交流ゾーンが開設されたことや、カーシェアリングのサービスが開始されたことで少しずつ便利になってきており、医療等に関してはまだ課題も残るものの、生活がしやすくなったと感じています。

大熊町は双葉町とともに、福島第一原子力発電所が立地する町ですが、移住するにあたり放射線に関する不安等はありませんでした。就職の面接時に町の状況等について話を聞くことができたため、より安心することができました。東日本大震災の発生当時は新潟におり、浜通り地方の状況について十分に情報収集ができていなかったため、大熊町に移住することが決まった際は自分でも少しだけ放射線について調べました。普段の生活の中では特に心配はしていませんが、現在でもJR大野駅を利用する際に、駅舎内に設置されている「大熊町環境情報サイネージ」で町内の放射線に関する情報に目を通すこともあります。

ネクサスファームおおくまでは、いちごの栽培管理の過程において、放射線や放射性物質の検査を行っています。施設敷地内の空間線量率測定や、土、苗、水、収穫物等の放射能測定検査をしており、収穫物は会社が所有している非破壊式放射能測定器を用いて、廃棄される物まで全て検査しています。全量検査を行うことやトレーサビリティに留意することで風評対策につながると思います。

大熊町は現在も住民が少なく、雇用が難しいことから、本来栽培に使うことができる敷地を最大限に使うことができていない状況です。住民同士、移住者同士の交流の機会もあるため、今後もっと帰還者や移住者が増えてほしいと思います。